

### 地域情報化アドバイザー制度活用報告書（2日目）

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

#### 記

#### 1. 申請団体情報

##### 1-1. 申請団体

団体名	伊勢原市役所	代表者名	高山 松太郎
担当者部署	情報政策課	連絡先電話番号	0463-94-4550
担当者役職	主任主事	担当者氏名	大場 康司
住所	259-1188 神奈川県伊勢原市田中348番地		

#### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	山澤 浩幸
評価	よい
上記評価の理由（どのよう なところがよ かったか等詳 細に）	標準化へ向けでは、各担当職員でも情報政策部門に任せている職員や、積極的に情報収集を行っている職員など、意識の差が大きいと感じております。 今回の公演を受けた担当者が、標準化に対応するためにシステムベンダーとの調整事項、作業内容、どのようなリスクがあるかを認識し、情報政策部門に丸投げではなく自分事と捉え、担当課内で中心となり取り組んでいく契機になればと感じております。
アドバイザーへの要望事項	特にございません。

#### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）	活動時間（分）
3-1. 活動	2022年1月17日	10時00分	15時30分	60	270
	派遣形態	講演（オンライン）			

#### 4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

#### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	標準17業務担当職員及び情報政策部門職員	25 人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 （具体的にご記入下さい）	各業務担当者は現時点で何をすれば良いのか、標準業務に含まれていない業務はどうするのか等不安の声があった。現時点では標準仕様書が公開されていない業務（第2グループ）もあるが、まずは現状の業務を整理し、見える形（業務フロー）に落とし込み、その上で標準仕様との比較・分析を行い、運用の見直しや、業務の必要性等の検討が必要であるとする。	
支援により目指す成果 （具体的にご記入下さい）	標準17業務担当者を対象に、標準化対応を行う上でやるべきこと、現行の業務洗いだし、業務フローの整備、業務分析手法などの講演を実施し、受講者がより実践的な知識・技術が得られるような機会を提供していただきたい。	
アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	標準化に対応するためのシステムベンダーとの調整事項、作業内容及びリスク等に関する内容、行政手続きのオンライン化へ向けての作業内容や実施する必要性等に関する講演。	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	アンケート結果から、業務担当者として少し難しいと感じる内容であったかと思われませんが、システム標準化及び行政手続きのオンライン化に関する知識・理解が深まり、意識付けも一定以上行うことができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	標準化については本格的に体制の整備が令和4年度になるため、今年度中に各担当者が情報集を行い、また、現在の運用、システム仕様の確認などを行っていく必要がある。 行政手続きのオンライン化については、想定されるオンライン申請件数の大小ではなく、住民サービスとしてチャネルを用意しておくことの意味を改めて考え、実現に向けて検討していく。	

アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 別添のとおり	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する
事業の最終的な目指す姿	標準17業務において、標準化システムに対応した業務の最適化がなされており、業務に関するドキュメントが整備され、適切に更新できる体制が整備されている状態。また、将来的には17業務に限らず、業務の見直し、最適化が全庁的になされている状態。	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

The screenshot shows a Zoom meeting interface. The main window displays a presentation slide titled "6 既存システムと標準仕様書の相違確認" (6. Confirmation of Differences Between Existing Systems and Standard Specifications). The slide contains two tables: "機能要件" (Functional Requirements) and "帳票要件" (Form Requirements). The "機能要件" table lists various functions like "検索" (Search), "印刷" (Print), and "連携" (Integration) with their corresponding system components and descriptions. The "帳票要件" table lists form types like "検索一覧" (Search List) and "印刷" (Print) with their descriptions and system components. A yellow callout box on the slide reads: "標準仕様書の規定があるならそのまま転記機能名称程度で理解可能ならそれでもOK" (If there are specifications in the standard specifications, transcribe them as is. It's OK even if you can only understand it to the level of function names). Another callout box says: "標準仕様と相違確認で○△×ヘタ確認し対応の判断を" (Use the confirmation of differences with the standard specifications to judge the response with O, △, X, and Hetero). The chat window on the right shows messages from participants, including one asking for clarification: "質疑はこちらのチャットで送信してください。" (Please send questions in this chat.)

